



令和8年3月11日

福岡市政記者各位

経済観光文化局文化振興課

## 福岡市文化賞・福岡市民文化活動功労賞 受賞者の決定及び贈呈式の開催について

令和7年度福岡市文化賞及び福岡市民文化活動功労賞の受賞者が決定しました。贈呈式を下記のとおり行いますのでお知らせいたします。ぜひ、取材いただきますよう、よろしくお願いいたします。

### 福岡市文化賞

芸術を中心とした福岡市の文化の向上発展に貢献し、特にその功績が顕著な個人、団体を表彰することにより、市の芸術文化活動の推進を図ります。

【制度創設】昭和51年度（今年で第50回目）

【受賞者累計】175名7団体（令和6年度まで）

【受賞基準】本市の文学、音楽、美術及びその他の芸術芸能等の向上発展に貢献し特にその功績が顕著であるもの

#### 令和7年度受賞者（五十音順）

美術（現代美術）	さいとう ひでさぶろう 齋藤 秀三郎
音楽	たくしま としゆき 多久島 利之
美術（絵画）	たなか ちさと 田中 千智
音楽（作曲）	ふじえだ まちる 藤枝 守
文学（詩、評論）	やち しゅうそ 谷内 修三

### 福岡市民文化活動功労賞

市民文化を育てる諸活動に努め、潤いのあるまちづくりに貢献し、特にその功績が顕著な個人、団体を表彰することにより、市民文化活動の推進を図ります。

【制度創設】平成6年度（今年で第32回目）

【受賞者累計】36名29団体（令和6年度まで）

【受賞基準】地域に根ざした文化活動や、地域の文化団体等の支援と育成、また、国際的な文化の交流活動を通じて、本市の市民文化の振興に多年貢献したものの

#### 令和7年度受賞者（五十音順）

[地域に根ざした文化活動]

あづま よしと  
東 義人

なかむら たかのり  
中村 高德

えぬびーおーほうじん ふくおかけんちく  
NPO法人 福岡建築ファウンデーション

### 贈呈式

日時 令和8年3月28日（土）11時～

場所 ソラリア西鉄ホテル福岡 彩雲「月」

（福岡市中央区天神2丁目2-4 3 ソラリアプラザ8階）

#### <添付資料>

- ・別紙1）令和7年度福岡市文化賞・福岡市民文化活動功労賞の受賞者について
- ・別紙2）令和7年度福岡市文化賞・福岡市民文化活動功労賞の選考にあたって（総評）
- ・別紙3）福岡市文化賞・福岡市民文化活動功労賞功績調書
- ・別紙4）贈呈式 次第

#### 【問い合わせ先】

経済観光文化局文化振興課 平井

（電話：092-711-4664 内線1801）

# 令和7年度 福岡市文化賞・福岡市民文化活動功労賞 の受賞者について

## 【福岡市文化賞】（五十音順）



©森田慶太

さいとう ひでさぶろう

齋藤 秀三郎

【美術（現代美術）】

画家。活動初期には、「九州派」や「グループ西日本」に所属。社会的な批評を題材として、「キャベツ」をモチーフとした銅版画等で表現する作品で知られ、現在も福岡・東京で個展を開催するなど、美術分野の向上発展に貢献している。



たくしま としゆき

多久島 利之

【能楽】

観世流シテ方能楽師。6歳の折、初舞台を踏み、数々の大曲を披き、重要無形文化財総合保持者となる。『多久島嘯風会』を主宰し、福岡市を拠点に公演の開催、若手能楽師の指導・育成に尽力するなど、能分野の向上発展に貢献している。



たなか ちさと

田中 千智

【美術（絵画）】

画家。大学卒業後、福岡を拠点に活動。油彩画制作に取り組み、国内外で個展やグループ展を開催。市美術館において壁画の公開制作を行うほか、書籍の装丁、新聞の挿画、「福岡クリスマスマーケット」のメインビジュアルにも携わるなど幅広い活動を行い、美術分野の向上発展に貢献している。



ふじえだ まもる

藤枝 守

【音楽（作曲）】

現代音楽の作曲家。九州大学名誉教授。これまで地域産業と連携した現代神楽を発表。植物の電位変化のデータを旋律に変換した作品「植物文様」やガムランのプロデュース公演など、精力的な創作活動を行い、音楽分野の向上発展に貢献している。



やち しゅうそ

谷内 修三

【文学（詩、評論）】

詩人、評論家。詩集『The Magic Box』で福岡県詩人賞、詩集『逆さまの花』で中新田文学賞を受賞。著書や詩の解説等を通して現代詩の魅力を伝えるなど、文学分野の普及・発展に貢献している。

## 【福岡市民文化活動功労賞】（五十音順）



あづま よしと

**東 義人**

【地域に根ざした文化活動】

私設美術館館長。平成6年、早良区石釜に「早良美術館るうゑ」を設立。展示アーティストはベテランから若手作家まで幅広く、長年、福岡近県で活動する画家達に作品の発表の場を提供し、地域文化の発展に貢献している。



なかむら たかのり

**中村 高德**

【地域に根ざした文化活動】

看板画家。福岡市内の映画館の絵看板を1,000点以上手がけ、懐かしくも温かみのある手描きの手法を通して作品の世界観を表現し、長年にわたり、地域文化の発展に寄与している。



えぬぴーおーほうじん ふくおかけんちく

**NPO法人 福岡建築ファウンデーション**

【地域に根ざした文化活動】

平成24年設立。一般市民向けの建築ツアーやデザインへの興味を育むレクチャー、ワークショップを開催するほか、福岡の近現代建築のマップを多言語で作成し、ホームページで公開するなど、まちの魅力発信および地域の建築やデザインの普及・発展に寄与している。

©Yousuke Harigane

## 令和7年度 福岡市文化賞・福岡市民文化活動功労賞の選考にあたって（総評）

文化賞、市民文化活動功労賞の候補者の公募に応じて、文学6名、音楽10名・2団体、美術8名、演劇5名・5団体、舞踊2名・1団体、能楽2名、華道1名、書道3名、その他3名・12団体の、あわせて40名・20団体の推薦が寄せられた。

選考においては、まず事前に各選考委員が推薦書（主な活動歴・作品・受賞歴等）をもとに賞に相応しい候補者を検討し、選考委員会では各委員が候補者について意見を述べ、様々な角度から議論を行い合議制で受賞候補者の選考を行った。

文化賞においては、齋藤秀三郎さんは、社会的な批評を題材に、平面、立体、インスタレーションを問わず、新しい表現に挑み続け、今なお福岡・東京での個展を開催するなど、積極的な活動が評価された。多久島利之さんは、「住吉神社能楽殿」の保存・活用に尽力するほか、能楽師の育成のため、「多久島嘯風会」を主宰するなど、能楽の普及・振興に向けた取り組みが評価された。田中千智さんは、油彩画で数々の賞を受賞する傍ら、近年では「福岡クリスマスマーケット」のメインビジュアルを担当するほか、国内外での展示会の開催や、市美術館では3年間にわたって壁画の公開制作を行うなど、アーティストとしての幅広い活躍が評価された。藤枝守さんは、地域産業と連携した舞台作品を発表してきたほか、「福岡ガムランフェスティバル」をはじめ、各地で舞台作品をプロデュースするなど、精力的な活動が評価された。谷内修三さんは、優れた詩集を刊行し、詩人としての実績を収めており、また、著書や一般向けの講座を通して、現代詩の魅力を伝える活動が評価された。

市民文化活動功労賞においては、東義人さんは、私設美術館「早良美術館るうゑ」を設立し、長年、新たな才能を発掘するとともに、福岡近県で活動する画家に発表の場を提供するなど、地域文化の発展に貢献している点が評価された。中村高德さんは、福岡市内の映画館の絵看板を数多く手がけ、手描きの手法で作品の世界観を表現することで、中洲、天神の映画文化の発展に寄与している点が評価された。NPO法人 福岡建築ファウンデーションは、一般向けの建築ツアーやワークショップなどの活動を通して、福岡の建築・デザインの普及やまちの魅力発信に貢献している点が評価された。

最後に、受賞された皆様をはじめ、今回候補者として推薦された皆様の今後ますますのご活躍を祈念するとともに、引き続き福岡市の文化の向上発展と市民文化の育成にご尽力いただくことを期待している。

福岡市文化賞・福岡市民文化活動功労賞 選考委員会

## 選考委員（五十音順、敬称略）

岩熊 正道（RKB毎日放送株式会社代表取締役専務取締役）	深町 健二郎（音楽プロデューサー）
大塚 ムネト（ギンギラ太陽's 主宰）	松隈 浩之（九州大学大学院芸術工学研究院准教授）
大田 精一郎（福岡文化連盟事務局長）	光行 洋子（九州産業大学名誉教授）
小野 哲司（福岡市文化芸術振興財団専務理事）	山本 百合子（福岡教育大学教授）
桜川 冴子（歌人・福岡女学院准教授）	吉田 由布子（福岡教育大学名誉教授）

## 福岡市文化賞功績調書

*部 門		美術（現代美術）	
		氏名	生年
		さいとう ひでさぶろう 齋藤 秀三郎	大正11年（103歳）
職 業	画家		
<p>福岡市在住。（旧制）九州大学農学部水産学科卒業。</p> <p>活動初期には「九州派」や「グループ西日本」に所属し、前衛的な作品を発表。社会的な批評を題材に、平面、立体、インスタレーションを問わず、文明の発展に対する不安を、「キャベツ」をモチーフとした銅版画等で表現する作品で知られる。</p> <p>常に新しい表現に挑み続け、いまなお積極的に作品を制作・発表し、現在も、福岡だけでなく東京でも個展を開催しているほか、世代の離れた地元作家が開催する展覧会やイベントなどに積極的に参加し、幅広い世代の芸術家たちと交流を続けるなど、美術分野の普及・発展に尽力している。</p> <p><b>【主な作品】</b></p> <p>平成17年 『キャベツ0508』</p> <p>平成20年 『曝されたもの』</p> <p>平成24年 『魂（クラスメート）』</p>			

## 福岡市文化賞功績調書

* 部 門    能楽	
氏名	生年
たくしま    としゆき 多久島    利之	昭和22年（79歳）
職 業	能楽師
<p>福岡市早良区在住。</p> <p>観世流シテ方能楽師（準職分）。平成3年、重要無形文化財総合保持者認定。公益財団法人能楽協会九州支部所属。</p> <p>幼少期より能に親しみ、6歳の折、<sup>くらまてんぐ</sup>「鞍馬天狗」で初舞台を踏む。昭和37年、大阪大槻家へ内弟子入門し、昭和47年に独立。</p> <p>昭和51年、29歳で<sup>どうじょうじ</sup>「道成寺」を<sup>ひら</sup>披く<sup>*</sup>。その後<sup>あたか</sup>「安宅」、<sup>きぬた</sup>「砦」、<sup>そとばこまち</sup>「卒都婆小町」等の大曲<sup>ひら</sup>を披く。</p> <p>平成8年には、「住吉神社能楽殿」の保存活用のため、福岡市能楽協議会設立に尽力する。また、父<sup>しゅうふうかい</sup>利吉と「多久島嘯風会」を主宰し、たゆまぬ修練の発表の場として、毎年大濠公園能楽堂で「春の会」「秋の会」を開催。次女法子と「能に親しむ会」を九州各地で主催するなど、福岡市を拠点に能楽分野の普及・発展に尽力している。</p> <p>※「披く」…能楽師が、大曲や難曲をはじめて演ずること。</p> <p><b>【主な受賞歴】</b></p> <p>平成19年    佐賀県芸術文化賞受賞</p> <p><b>【主な役職歴】</b></p> <p>平成8年    福岡市能楽協議会 委員</p> <p>平成22年    能楽協会九州支部 支部長</p> <p>平成28年    能楽協会九州支部 常議員</p>	

## 福岡市文化賞功績調書

*部 門 美術（絵画）	
氏名	生年
たなか ちさと 田中 千智	昭和55年（46歳）
職 業	画家
<p>福岡市西区在住。多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業。</p> <p>平成18年より、福岡を拠点に本格的に活動を開始。アクリル絵の具を用いた漆黒の背景に、艶やかな油彩で前景を描くという独自の手法による作品が特徴的である。油彩画だけでなく、書籍の装丁、新聞の挿画、ポスター原画を手掛けるなど幅広く活動するとともに、令和3年から「福岡クリスマスマーケット（現クリスマスアドベント）」のメインビジュアルを担当。</p> <p>さらに、個展・グループ展を福岡、東京、韓国など国内外で開催し、福岡市美術館では、令和5年から3年間にわたって「生きている壁画」を公開制作するなど、美術分野の普及・発展に尽力している。</p> <p><b>【主な受賞歴】</b></p> <p>平成14年「第10回新日鐵アートスカラシップ飛幡展」入選</p> <p>平成20年「art_icle」オーディエンス賞</p> <p>平成22年「ART AWARD NEXT #1」青年会賞</p> <p>平成25年「損保ジャパン美術賞FACE2013」優秀賞</p> <p>令和元年「第78回 西日本文化賞」社会文化部門 奨励賞</p> <p>令和6年「第31回 福岡県文化賞」奨励部門</p>	

## 福岡市文化賞功績者調書

*部 門	音楽（作曲）	
	氏名	生年
	ふじえだ まもる 藤枝 守	昭和30年（71歳）
職 業	作曲家、九州大学名誉教授	
<p>福岡市南区在住。カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽学部博士課程修了。博士号(Ph. D. in Music) 取得。湯浅譲二、モートン・フェルドマンらに作曲を師事。</p> <p>平成13年九州芸術工科大学（現、九州大学大学院芸術工学研究院）の教授に着任。平成24年度以降は、同研究院に付設されたソーシャルアート・ラボのディレクターとして、志賀島の神話や歴史性をよみがえらせる「志賀島プロジェクト」を立ち上げ、焼酎の発酵音響による「甕<small>かめ</small>の音なひ」、博多織<small>はたおと</small>の機音による「織<small>おり</small>・曼茶羅<small>まんだら</small>」などの地域産業と連携した現代神楽を発表。</p> <p>近年では、植物の電位変化のデータを旋律に変換した作品「植物文様」の海外公演を行うほか、サンゴ骨格の音響に着目した作品制作に取り組む。</p> <p>退官後も、福岡におけるガムラン<small>ガムラン</small>の第一人者として実験音楽的な現代音楽を追求し、プロデュースや舞台公演など精力的な創作活動を続け、音楽分野の普及・発展に尽力している。</p> <p>※「ガムラン」…インドネシアの伝統的な音楽で、主に青銅製の打楽器などによる合奏</p> <p><b>【受賞歴】</b></p> <p>昭和57年 「今日の音楽—Music Today」 第1回国際作曲コンクール 入選～入選作《遊星の民話 I》</p> <p>昭和59年 第5回入野賞～受賞作《オーケストラの修辞学》</p> <p>昭和59年 ISCM国際現代音楽祭入選(モンリオール大会)～入選作 《遊星の民話 II》</p> <p>平成12年 日本文化芸術財団 日本現代芸術奨励賞</p>		

## 福岡市文化賞功績調書

*部 門 文学（詩、評論）	
氏名	生年
やち しゅうそ 谷内 修三	昭和28年（73歳）
職業	詩人、評論家
<p>福岡市中央区在住。</p> <p>昭和51年、第14回現代詩手帖賞受賞。昭和58年、詩集『The Magic Box』で第19回福岡県詩人賞受賞。平成14年、詩集『逆さまの花』で中新田文学賞受賞。これまでに刊行した多くの詩集や評論集が、文学賞の候補作・受賞作として取り上げられてきた。</p> <p>自身の著書や詩の解説を通し、読者に詩の読み方を伝え、『谷川俊太郎の『ころも』を読む』では、読者に加え、谷川俊太郎本人からも高い評価を受けた。</p> <p>現在は地元のカルチャーセンターの講座において、一般の受講者を対象に、谷川俊太郎の詩を題材に、現代詩を読むこと・書くことの魅力を伝えるなど、文学分野の普及・発展に尽力している。</p> <p><b>【受賞歴】</b></p> <p>昭和51年 第14回現代詩手帖賞          昭和58年 第19回福岡県詩人賞          平成14年 中新田文学賞          平成27年 第52回福岡市文学賞</p> <p><b>【主な著書】</b></p> <p>昭和57年 詩集『The Magic Box』          平成14年 詩集『逆さまの花』          平成26年 詩集『注釈』          平成11年 『詩を読む 詩をつかむ』          平成26年 『谷川俊太郎の『ころも』を読む』          平成26年 『リッツォス詩選集－附：谷内修三「中井久夫の訳詩を読む」』</p>	

## 福岡市民文化活動功労賞功績調書

*部 門	地域に根ざした文化活動	
	氏名	生年（歳）
	あづま よしと 東 義人	昭和11年（89歳）
職 業	早良美術館るうゑ 館長	
<p>福岡市早良区在住。</p> <p>平成6年、早良区石釜に私設美術館である早良美術館るうゑを設立。</p> <p>「るうゑ」はドイツ語で「やすらぎ」を意味し、戦後美術史を代表する洋画家 香月泰男や松田正平などの作品を所蔵。美術館は設立当初から、作家から会場使用料は徴収せず、入館料200円を来館者より徴収する形で運営しており、展示アーティストは、ベテランから若手作家まで幅広い。同施設の運営を通じて、新たな才能を発掘するとともに、長年、福岡近県で活動を行っている画家達に発表の場を提供するなど、地域文化の発展に貢献している。</p>		

## 福岡市民文化活動功労賞功績調書

*部 門		地域に根ざした文化活動	
氏名		生年（歳）	
なかむら たかのり 中村 高德		昭和20年（80歳）	
職 業	看板画家		
<p>福岡市早良区在住。17歳で、福岡市内で映画の看板を請け負っていた、高木画房の故・高木寿夫氏に師事。</p> <p>28歳で独立し、ナカムラ看板を開業。以後、福岡市内の映画館の絵看板を手がけ、現在まで手がけた映画の看板の数は1,000点以上にのぼる。</p> <p>令和7年5月、博多座『屋根の上のヴァイオリン弾き』では、懐かしくも温かみのある手描きの手法を通して作品の世界観を伝え、出演者や観客から多くの賛辞を集めた。長年にわたり、天神、中洲の映画文化に寄与し、現在は、地元の公民館サークルで、市民を対象に水彩画の指導を行うなど、地域文化の発展に貢献している。</p>			

## 福岡市民文化活動功労賞功績調書

* 部 門 地域に根ざした文化活動	
氏名	設立
<small>えぬびーおーほうじん ふくおかけんちく</small> NPO法人 福岡建築ファウンデーション	平成24年（設立12年）
職 業	—
<p>平成21年、福岡近現代建築ツアーイベント「MATfukuoka」を開催。平成24年、同活動を継承し、さらに発展させる目的でNPO法人 福岡建築ファウンデーションが設立された。以来、「建築は文化」、「建築は社会資産」という信念のもと、一般市民向けの建築ツアーだけでなく、デザインへの興味を育むレクチャー、ワークショップの開催など、活動の範囲を広げながら、優れた建築やデザインと市民を繋ぐ多様な取り組みを継続的に行う。</p> <p>また、福岡の近現代建築を紹介する「FAF福岡建築50選」を5か国語で作成し、ホームページで公開するとともに、日本語版・英語版のマップを作成し、総合案内所等で無料配布を行うなど、建築物を通じて、福岡のまちの魅力を広く発信し、建築文化やデザインの普及・発展に寄与している。</p> <p><b>【主な受賞歴】</b></p> <p>令和4年 第29回福岡市都市景観賞 活動部門賞</p>	

令和7年度 第50回福岡市文化賞・第32回福岡市民文化活動功労賞  
贈呈式 次第

日時：令和8年3月28日（土）11時00分～

会場：ソラリア西鉄ホテル福岡 彩雲「月」

1 開式

2 主催者挨拶

3 来賓紹介

4 贈呈

(1) 福岡市文化賞

【美術（現代美術）】

齋藤 秀三郎 様

【能楽】

多久島 利之 様

【美術（絵画）】

田中 千智 様

【音楽（作曲）】

藤枝 守 様

【文学（詩・評論）】

谷内 修三 様

(2) 福岡市民文化活動功労賞

【地域に根ざした文化活動】

東 義人 様

【地域に根ざした文化活動】

中村 高德 様

【地域に根ざした文化活動】

NPO法人

福岡建築ファウンデーション 様

5 お祝いのことば

6 受賞者記念挨拶

7 閉式